

# 南海トラフでのプレート境界の地震

## ・宝永地震（1707年10月28日 M8.6）

1707年10月28日に発生した宝永地震は、遠州灘沖合から四国沖にかけての領域を震源域とし、規模は1854年の安政南海地震や1946年の昭和南海地震より大きいと考えられています。推定震度5以上を観測した範囲は図1のように広く、震度7と推定されている場所もあります。この地震により発生した津波は東海～四国太平洋側を中心に沿岸で5mを超えて四国の太平洋側を中心に10m以上のところもあったと推定されています（図2 出典：地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」）。

この地震による被害の様子は「日本被害地震総覧599-2012 宇佐美ほか,2013」によれば、「広島で城濠の水が路上に溢れ、石壁の崩壊あり（町・郡中で全潰家屋78,半潰68）,備後三原で城の石垣孕む。福山で潰家57、破損（家屋）36」などの記述がみられています。

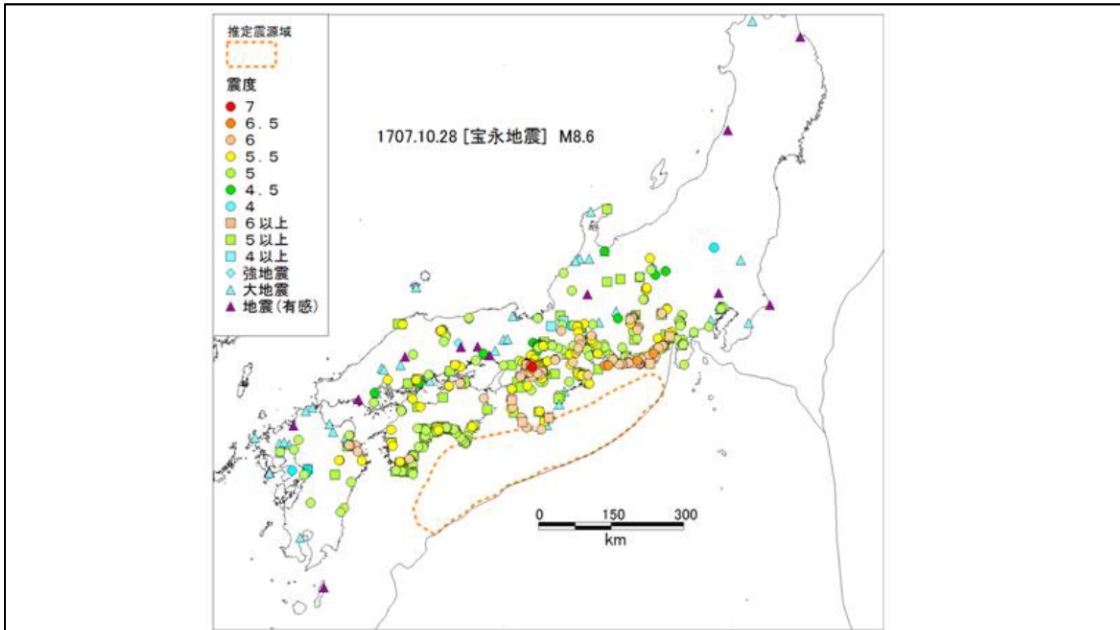


図8-4 1707年の宝永地震の震度分布図（松浦，2012より作成）

津波被害を極力除いた被害状況や有感記述から推定した震度。鹿児島県域は史料が限られるため、震度がほとんど推定できていない。

図1 宝永地震の震度分布図  
（地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」より）

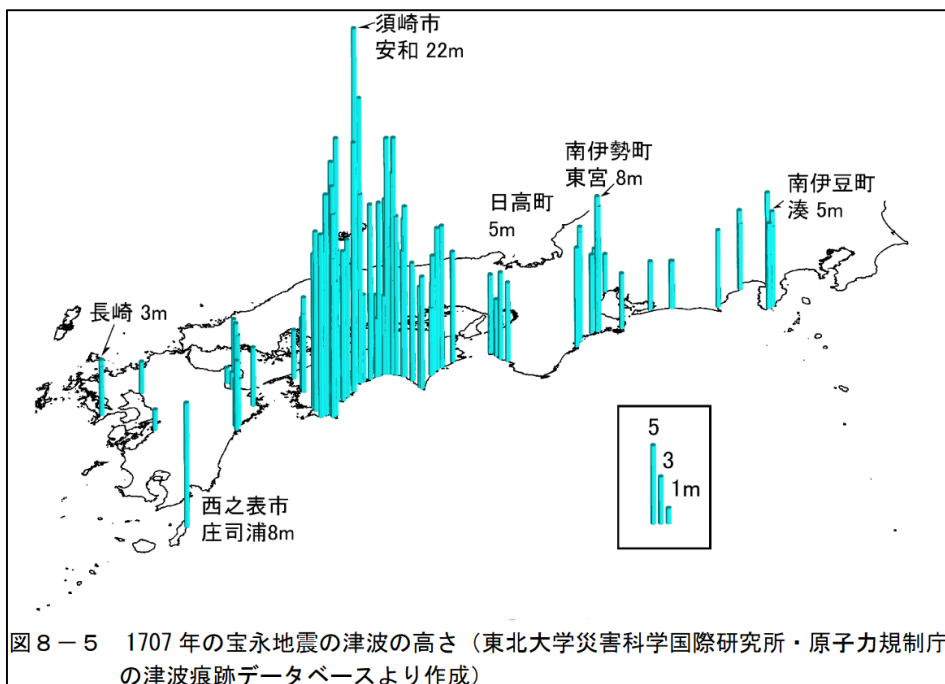


図8-5 1707年の宝永地震の津波の高さ（東北大学災害科学国際研究所・原子力規制庁の津波痕跡データベースより作成）

図2 宝永地震の津波高  
（地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」より）